

留学体験レポート

国際学部 2年 藤由菜乃花

1. はじめに

アメリカで勉強した3ヶ月半、私はこれまでにない苦労と数々の幸せを味わいました。その中で、幸せな思い出の一つを紹介します。

2. 偶然の出会い

帰国が1週間後に迫った頃、素敵な出会いがありました。その日私は、アメリカ人の友達と日本人の友達と、近くのダウンタウンに遊びに行っていました。ある女性が私たちに話しかけて来ました。彼女は沖縄に住んでいたことがあり、私たち日本人に気づいて話しかけてくれたそうです。そこで話が盛り上がり、一緒にいた友達ケイティが話を進めてくれたこともあり、私たちが帰国する前に彼女の家に招待してもらうことになりました。

3. お宅訪問

その数日後の12月5日、私たちはその女性サラさんの家にお邪魔しました。家に着くと、サラさんは私たちにピザをご馳走してくれました。サラさんの家は5人家族で、娘さんはクッキーを焼いたり、日本にいた時に覚えた日本語を話してくれたりしました。その弟さんは日本で習っていた空手を披露してくれました。サラさんの家には日本部屋があり、彼女の家族が日本に住んでいた頃に集めたものや、当時の写真、思い出のものなどがたくさんありました。彼女は私たちが英語を勉強するためにここへ来てあることを知り、英語を話す機会を作るために他の友達も呼んでくれました。そしてみんなで、クリスマスツリーやクッキーを飾りつけして楽しみました。あたたかい家族とその友達に囲まれて過ごした時間は、初めて会った人もたくさんいたのにとっても心地よくて、本当に幸せでした。

4. たくさんの出会い

留学中、サラさんの他にも日本が大好きだと言ってくれる多くの人に出会いました。特に、留学初日から誰よりも私たちに歓迎してくれたケイティはいつも私たちにいろいろなイベントに誘ってくれました。また、世界中から集まったクラスメイトはみんな日本に興味を持ってくれ、お互いの国の言葉を教え合い、たくさんの話をしました。思い切って日本を出たことで、私の世界を広げてくれたこの人たちと出会うことができました。

5. おわりに

今回留学に行くにあたって、本当にたくさんの方々にお世話になりました。新潟国際情報大学の先生方、学務課の職員さん、セントラルミズーリ大学の先生方、108日間の留学生生活を共にした21人の仲間たち、留学中にできた友達、日本で応援してくれていた友達、そして家族など、書ききれないほどのみなさんのおかげでこのような尊い日々を過ごすことができ、無事に帰ってくることができました。心から感謝しています。この留学で手にした一生の宝物を、今後も大切に育て、自分の力(自信)にしていきます。